

No.45

## A WORD FROM ANOTHER WORLD



## The Ogotogo Taylor Burnett

My hometown of Kelowna was founded beside the Okanagan Lake. The lake is very long, very deep, and very mysterious. Recently, strange sightings have occurred near the lake. What did the people see? Why the Ogotogo of course! The Ogotogo is Kelowna's version of the Loch Ness Monster. The Ogotogo has the head of a horse, the horns of a goat, and the long, scaly body of a gigantic eel. It is said to be 10 metres long and lives at the bottom of the Okanagan Lake. People have been reporting sightings of the Ogotogo since before Kelowna was formed, with the most recent sightings in April of this year!

There are many theories about Ogotogo. The indigenous Okanagan people in the area called it n'ha-a-itk and told children to take care around the water. There are stories about boats being overturned, horses dragged beneath the water, or mysterious waves that go against the current. One popular story tells of the Ogotogo rescuing a school bus after it fell off the bridge. Some say the Ogotogo travels in secret tunnels between the Okanagan Lake and the Pacific Ocean, or even all the way to Loch Ness! Even I have seen a mysterious ripple or two in the middle of the lake. It is hard not to imagine what might be lurking below.

Some people are quick to dismiss the Ogotogo as just a legend, where others insist it exists. Do you believe in the Ogotogo?

## 【ちょっと豆知識】 宮地晶子

謎の怪獣は、ケロウナの「オゴボゴ」のほかに、マニトバ州には「マニボゴ」、ウィネベゴシス湖には「ウィネボゴ」など、カナダにはずいぶんいるらしい。楽しいですね。英語ではこれら謎の未確認動物を総称してcryptid（クリプティッド）と呼びます。日本では未確認飛行物体UFO（Unidentified Flying Object）をまねてUMA（ユーマ）（Unidentified Mysterious Animal）と呼んでいます。英語っぽいですね。

Ogotogo: オゴボゴ / Okanagan: オカナガン / n'ha-a-itk: ナハツアツイティク

## オゴボゴ テイラー・バーネット

私の故郷ケロウナは、オカナガン湖のそばにできたまち。この湖は、とても長くて深くで神秘的。最近ではこの近くで不思議な目撃情報が。人々が目にしたのは？ もちろん、それはオゴボゴ！

オゴボゴは、ネス湖のネッシーのケロウナ版。頭は馬で、角は山羊、そして巨大ウナギのように長くうろこの浮いた体。全長10メートルでオカナガン湖の奥底に住んでいます。オゴボゴの目撃情報は、ケロウナの街ができる前からありました。最近では、今年4月にも目撃されています。

オゴボゴには多くの説があります。先住民は、オゴボゴをナハツアツイティクと呼び、湖の周りでは注意するように子供たちに言い聞かせました。ボートが転覆させられたり、馬が引きずりこまれたり、神秘的な波が逆立つ、という説もあります。好まれるのは、オゴボゴが橋から落ちたスクールバスを助けたという話。また秘密の海底トンネルでオカナガン湖と太平洋を行ったり来たりしているとか、ネス湖まで行く、と言う人もいます。私だって、湖の真ん中に不思議なさざ波の一つや二つ見ましたからね。湖水に何が潜んでいるのか想像せざるにはいられません。

ただの伝説、と片付ける人もいるけれど、オゴボゴは存在する、と主張する人もいます。あなたは信じますか。（訳：宮地晶子）

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第119回

## スーパー・グローバル大学構想

「SGU」ってご存じですか。札幌学院大学？ いえいえ、「スーパー・グローバル・ユニバーシティ」の略です。これは「大学のグローバル化を図る」という文部科学省の事業。37大学が選ばれ、なんと今後10年間で総額千億円の国助成をするそうです。

選定になったある私立大学は、今後留学生数を500人から2千人に、外国人教員数を14パーセントから20パーセントに増やすそうです。キャンパスを国際化することで英語を使う機会が増え、グ

ローバル化に対して学生たちのアレルギーがなくなる、というのが狙いだそうです。

今や日本の空港では、出入国時の検疫でウイルスなどの未然侵入チェックと水際の食い止めを求められています。介護分野では外国人労働者の労働力に頼り、接客業の外国人もとても多くなりました。今やグローバル化は、海外に出なくても国内に押し寄せています。

そこで、改めてSGUの費用対効果は？と考えると、「アレルギーがなくなる」という目的のために、そんなに多額の予算をかける手法は、「英語嫌いを作らないために」という理由で小学校に英語活動を導入したときとそっくり同じに思えます。

道内で選定された北海道大学では、「新渡戸カレッジ」という特別コースで、グローバルに活躍できる人材を育てるとか。英語での授業、海外留学促進などおもしろそうではあります。でもじれったいなあ、と思うのです。大学にも留学にも期待はしますが、それ以前に個人がどれだけ力を蓄えるかだと思うからです。

かつて「TOEFLと留学指導の鬼」といわれた村川久子先生はこう言いました。「1日2時間やらないなら、うまいもん食って寝ていた方がまし」。どうです？気持ちいいでしょう。言ってみてー！